

会 議 録

1 会議名

平成28年度 第4回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成28年度地域活動支援事業の採択結果について（公開）
- (2) 地域活動支援事業の審査・採択の基本的なルールについて（公開）
- (3) 金谷区地域協議会の取組と課題等について（公開）

3 開催日時

平成28年7月27日（水） 午後5時56分から午後7時23分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 2階 第一会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：高宮宏一（会長）、川住健作（副会長）、村田敏昭（副会長）、伊崎博幸、石野伸二、伊藤三重子、牛木喜九、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、土屋博幸、永野起男、西条聖士、山口茂幸、吉村清正
- ・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、槇島係長、小林主事

8 発言の内容

【小林主事】

- ・16名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：桑山委員、齋藤委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

一次第3報告（1）平成28年度地域活動支援事業の採択結果について—

【高宮会長】

次第3報告（1）「平成28年度地域活動支援事業の採択結果について」、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求める。

【伊崎委員】

附帯意見の①と②は逆ではないか。

【榎島係長】

資料No.1の表の右側、特記事項にある附帯意見①と②が反対になっている。修正願う。

【高橋委員】

整理No.1の「人と自然・中ノ俣の暮らし」製作事業の写真集を、参考資料として全委員に提供してほしいと前回依頼したが、提案団体へ伝えてあるか。

【高宮会長】

事務局に説明を求める。

【小林主事】

その旨を提案団体に伝え、委員分の提供を受けることで了承を得ている。

【高宮会長】

他に質疑を求めるがなし。

一次第4議題（1）地域活動支援事業の審査・採択の基本的なルールについて一

【高宮会長】

次第4議題（1）「地域活動支援事業の審査・採択の基本的なルールについて」に入る。

新年度に向けたルール等の見直しは秋以降に行うが、本日は前回会議での審査・採択の感想や意見を述べてほしい。

【石野委員】

区によって採点方法が異なると聞いた。方法の違う区のことを、次回の会議までに事務局で調査願いたい。

【榎島係長】

地域協議会では、区ごとに審査・採択のルールを定めているため、区によって方法が異なる。事務局で担当している残り3区のルールは説明できるが、その他の区は責任を持って説明できない。事務局が所管する3区の資料を示すことでよいか。

【石野委員】

よい。

【桑山委員】

町内会での問題と協議会での問題はどのようにすり合わせたらよいか。

町内の問題を協議会でどのように協議すればよいか。町内の問題を地域全体で解決するものと捉えてよいか。

地域をより良くしていくために地域協議会はあるが、町内会の組織もある。町内会をまたいで、金谷区全体でより広範囲に考えればよいか。

【榎島係長】

町内会と地域協議会とは全く別のものである。両方の立場を持つ委員も多いが、それらの委員は、地域協議会での課題を町内に繋いでもらうとか、町内での問題を地域協議会に出してもらおうという立場ではない。それぞれで課題解決について検討するものとする。

【高宮会長】

地域協議会では、自主的審議事項、地域活動支援事業、諮問事項の3つの柱がある。地域活動支援事業は、町内会などの団体に何か事業はないか希望を取っていると思う。自主的審議というのは、「金谷地区としてこういうことをしてほしい」、「こういうところを何とかできないか」と市長に進言する要素がある。

また、委員も金谷区全体を考え、「こうすればもっとよくなる」という発想に切り替えてほしい。この間、金谷区の自主的審議事項があまりなかったため、増やしたいと考えている。この3つの柱を理解してほしい。

【土屋委員】

850万の予算配分額は誰がどのように決めているか。

また附帯意見②に関連し、前回の会議の中で散策道入口に標柱をつけるべきという話が出たが、例えば入口に看板を立てるのにあと50万、100万必要だとなった時は、来年度の事業とした方がよいのか。

【榎島係長】

1点目について、予算の配分額の決定は市長が行う。計算方法としては、全28の地域自治区があり、予算が全体で1億8千万円ある。まず均等割で全ての区に1区当たり450万円ずつ割り当てる。その時点で1億2千6百万円分が28区に割り振られる。それに加え、人口割で残りの5千4百万円を案分する。その後、端数処理で十万円単位にする。金谷区では均等割と人口割の合計で850万円という計算である。

2点目は、標柱の話の中で今回見送った全体の案内図を来年度実施しようとした場合にどうなるかということによいか。

【土屋委員】

基本的に無駄遣いをやめようという話の中で、標柱の事業はもっとやるべきという雰囲気だった。そのような時は、地域協議会の中で協議して補助額を増額できるのか、それとも来年度になるのか。

【榎島係長】

普通は、補助金の配分額の減額が行われる。仮に予算に余裕があり、提案団体でそれができる場合、予算の範囲内で増額は可能と考える。

来年度に全体地図の看板を立てようということになれば、改めて来年度にその団体が提案し、審査を受けるという手順になる。

【土屋委員】

承知した。

【石野委員】

秋にまたこの件について話し合うということだが、事務局から他の3区の審査・採択のルールを提供してもらい、皆さんで勉強なり調べるなりするべきである。

覚悟を持って委員になったのだから、勉強し無駄のないようにするべきだと思う。秋の段階ではもっと具体的にやったらどうかと思う。

【村田副会長】

補助希望額の合計額が、予算配分額と同額である。どうして同額なのか、疑問に思う人があると思う。残額が出て二次募集をかけることを防ぐためなのか。

28区で同様の区は他にあるか、事務局に伺う。

【榎島係長】

他にはなかった。

【村田副会長】

予算配分額に満たない、あるいは超過するのが自然だと思う。秋以降にルールを検討する際に、合わせて考えてほしい。

【石野委員】

他の区では、予算に対して要求額が多かった場合、予算額に収めるためにどうしているか事務局に伺う。

【榎島係長】

審査・採択の段階で予算配分額よりも補助希望額が多かったのは、事務局の担当する区では、高田・三郷・和田全てそういう状況だった。

高田区においては、順位の上から予算を充てていき、満額補助ができる最後の事業までを採択し、次点については一部しか補助ができないため不採択とした。残額は執行しなかった。

三郷区と和田区については、一部の事業を減額したうえで全部の事業を採択し、

予算配分額と同額に収めた。

【石野委員】

市としては配分に対する決まりはなく、各区で決めるのか。

【榎島係長】

配分方法は地域協議会ごとに決めるもの。ルールに書いてもよいし、毎年採点結果を見ながらその都度決めてもよい。現在金谷区では配分方法は定められていないため、その都度決めることになる。

【山口委員】

今回はLEDの提案で調整したのかもしれないが、本来は協議会で調整するもの。今年も予算配分額と同額で、何も決まりがないため、このとおりでよいと思う。

【川住副会長】

LED事業は金谷地区振興協議会が去年から始め、町内会からは1台でも多くという要望が大変強い。金谷区の地域活動支援事業の予算を余さず使い切りたという要望があり、予算配分額ちょうどになるように提案した。来年度からは多めに提案し、最後に地域協議会で減額するなどしたい。

【村田副会長】

川住副会長が言われたとおりでよいと思う。

【高宮会長】

いただいた意見を整理し、ルールを作っていきたいと思う。

他に意見を求めるがなし。

一次第4議題（2）金谷区地域協議会の取組と課題等について一

【高宮会長】

次第4議題（2）「金谷区地域協議会の取組と課題等について」事務局に説明を求める。

【小林主事】

資料No.3により説明。

【高宮会長】

改選前の委員に補足を求める。

【川住副会長】

いろいろなところを見て歩き、金谷区は広いと感じた。

出張協議会は非常に効果があった。特に灰塚で開催した時には、お茶飲みの話題が出た。お年寄りには会場まで来るには遠すぎる、町内会館等でできたらよいなど、身近な意見が出た。遠くの人を金谷区の一カ所に集めるのではなく、それぞれの地域に小さいお茶飲みの場を作っていく。お茶飲みだから、歩いていける距離が最適だと思う。また、耕作放棄地をうまく利用できないかなど、いろいろ話があった。

他には観光面で、南葉高原や金谷山などいろいろな観光資源があるが、うまく結びついていないという意見があった。これは今後の検討課題だと思う。

広い意味の観光を考えることも大事だが、例えば、高速道路を降りたところは雑草が伸びて見栄えが悪い、そういう身近なものでやれるところからやるべきである。

市では最近いろいろな施設を町内に預けている。上越高田 I C 近くのパークアンドライドの管理を向橋町内で受けた。年数回の草刈りをして報酬がもらえる。1時間草刈り機でやって1回あたり500～600円くらいにしかならないが、半分ボランティアを兼ねているので、それでもよいと思う。そういうところに陽を当てていく活動も必要ではないかと感じた。

【高橋委員】

これまで「ああしたらいい」「こうしたらいい」で終わっていて、具体的に何をやるかという話が出ていない。観光についてグループ討議をしても、市観光課へ話せばよいという意見になるが、観光課に話しても絶対に何もしてくれない。

会津墓地に歴史の看板を、金谷山の入口に散策ルートの看板を作った。会津墓地の保全活動を地元で続けてきたところ、高田の人たちが一生懸命墓地を守ってくれたということで、今年秋に会津からバスツアーで30～50人が来る。その対応は私がひとりでやらなくてははいけない。今、式典について細かい打合せをしており、会津墓地で、「高田」という種類の桜を3本記念に植えたいという話が出ている。私もひとりでどうすればいいのか苦慮している。行政にも話をしなくてははいけない

と思っている。

このように、地域の人たちなどが金谷山の面倒を見てくれて活動が続いている。それを会津の人が見て認めてくれて、30人か50人で墓参に行くからと。

金谷山を散歩する人や会津墓地を見に来る人は増えてきている。しかし、観光はお金にならなくては何もならない。ただ人が来るだけではお金にならない。土産を買ってもらい、利益が上がらなければ観光にならない。レルヒさんカレーが流行っているが、あのような品物を作って売らなければならない。観光といっても、ただ看板をあげるだけでは何にもならない。

南葉山のキャンプ場は、私も経営に携わっているが、経営状況はとても良い。人もたくさん来ている。秋には興行があり1,500人が来る予定であるが、駐車場の確保が課題。観光は場所を先に作ってから人集めをしないとイケない。駐車場の確保は難しい問題で、キャンプ場の責任者と協議している。10月は利用者が少ないため、1,000人以上の人が来るのは非常に嬉しいことであるが、受け入れ態勢が整わない。それを何とか受けるようにはする。

会津墓地の墓参りについては、お参り、寺での読経、ホテルの手配と大変な作業である。断ることはできない。何とか引き受けないとイケない。

「観光に力を入れろ」、「上越市は何をやっているんだ」とよく言うが、私も市観光課の気持ちがあった。受け入れられる状態ではない。予算もない。私は「金谷地域歴史を守る会」に入っているが、会費を集めていない。お茶代をもらっているだけの会なので、資金繰りができない。そのため、「50人来るから何とかして下さい」と言われても大変である。その辺を考えながら、観光というものを考えていかなければいけないと感じている。ただ観光と言うだけでは何もできない。本当は皆さんからも手伝ってもらいたい。

【村田副会長】

大貫の4町内には是非声をかけてほしい。協力したい。

【高橋委員】

私も観光に関心があり活動していたが、それがこんな大反響になるとは思わなかった。観光について会議で何回も話したが、その時の皆さんの話は「観光課へ話し

たらしい」、「PRだけじゃなくて入口に看板を立てたらしい」だけで終わっている。そんな簡単な話なら、協議会で話す必要はない。現実の話をしないと前に進まない。

【高宮会長】

金谷区地域協議会の課題がひとつ出てきた。

他に意見を求める。

【竹内委員】

月1回全員で集まり会議をする方法では、自主的審議をしてもなかなか問題解決には繋がらないと思う。直江津区では昨年度18回会議を開いて議論を進めているようだ。仕事の合間に集まる会議では、自主的審議や自主課題に取り組むのは難しいと思う。

今期は若い委員も多いが、どのような進め方が一番良いか、4年間の任期の中で議論しながら、少人数の部会で考えるとか、全体で細かく話し合っていこうとか。何かに取り組むには会議の数は増えるのではないか。言われたことだけの審議なら1時間半程度で終わるが、自主的審議をするととなるとそれでは難しいとこれまでの4年間で感じた。

【山口委員】

高橋委員のとおり、観光はとても難しいと思う。旅行に行けば必ずお土産など心に残るものがあるが、上越市には、土産も食べ物もない。

このような会議を何回も繰り返せばよいというものでもなく、我々自身は何ができるか考え、アドバイスをしてくれる人がいれば話を聞いてはどうか。

【高宮会長】

新委員の意見、感想を求める。

【石野委員】

観光に関連し、私が勤務している所は、県外から大勢の方がこの夏に来ている。今日も大阪や愛知から、カードを求めて来ていた。ただ、買い物などで勧められる場所が何もない。ここに行ったら何かある、珍しいものが見られる、という場所がないのを実感している。

【高宮会長】

南葉高原から中ノ俣への林道は、現在通行止めである。去年発生した大きな土砂崩れが復旧せず、今年また違う場所で土砂崩れが発生し、まだ通行止めである。私も市観光課へ行き、「市では観光と言いながら、南部の金谷地区は全然見ていないがどうなっているのか」と話し、いろいろ資料を見たが、大きな地滑りであり、簡単にはいかないようである。

自主的審議で、金谷区に必要なものを大いに話し合い、市長に進言していくことが大事ではないかと思う。次回以降、お願いしたい。

今後はこれまでの経過を踏まえ、地域の課題抽出、課題の整理に取り組んでいきたいと思うがよろしいか。

【高橋委員】

今日は課題を出さなくていいのか。

【高宮会長】

次回にまた意見を出していただく。

【高橋委員】

今日は何をやるのか。

【高宮会長】

地域協議会の取組・課題等の意見を出していただいた。

【高橋委員】

課題は何が出たか。

【高宮会長】

観光について、高橋委員が一人でされていることを、地域協議会で金谷区全体の課題として捉えたいということである。

【高橋委員】

課題は他にも人口問題などいろいろある。そこで終わりにされたら困る。

【榎島係長】

本日は正副会長と協議し、自主的審議事項に繋がるような地域の課題を、次回以降皆さんで取り組んでいくという方針の了解をいただきたいと思っている。合わせて次回の協議会では、人口動態の説明を事務局からしたいと思うので、そちらの提

案をしたい。

【高橋委員】

協議会で決めたことは、協議会全員で力を合わせてやってもらえるかを聞きたい。例えば人口問題で、具体的にこういう活動をしようとして私が提案し、それが通ったら全員が力を貸してくれるのか。

また観光面で、商品開発等は地域協議会ではできないのか。人に話を提案するだけではダメなので。

【榎島係長】

地域協議会としてそのような活動をするには、制度としては想定していない。

市に動いてもらいたい場合には意見書になるし、市と地域が連携して取り組む場合は「地域を元気にするために必要な提案事業」がある。また、地域の団体に取り組んでもらおうと思えば地域活動支援事業の活用もできる。あとは、町内会長への声かけなど、地域協議会として地域に声かけをするのもある。

地域協議会と同じメンバーで、任意の会としての活動はできると考える。

【高宮会長】

あらかじめ聞いて分かっていたら、手伝ったり市へ依頼したりする話ができるが、今日初めて聞いたので、すぐには決められない。

【高橋委員】

全員が、地域協議会として協力してくれるかどうか。

【高宮会長】

次回、今後の金谷区の間組として話をしたい。

【高橋委員】

筋違いだからダメというなら、それでよい。

【高宮会長】

そういう問題とは違うと思う。

【石野委員】

内容によるが、協議会として何かしようと決まれば全面的に協力する。これは振興協議会に任せるべきだと結論が出ればそうなる。手段の問題である。

【高宮会長】

その内容がよく分からない。

【高橋委員】

議題の「取組と課題等」がぼやけているから、今日は何を決めるのかを聞いた。

【高宮会長】

改選前の委員や、新任の委員に意見を聞き、それを基にして次回検討する。

【高橋委員】

今日は、これでいいということか。

【高宮会長】

よい。

【石野委員】

今まで挙げた課題が示されないため、何も分からない。

【高橋委員】

資料No.3には、議論の内容が示されていない。どういう意見交換をして、どういう方向や結果になったのか書かれていない。

【山口委員】

昨年・一昨年の意見交換の結果をもとに進めていくべきである。観光の問題でもあれだけ意見があったのだから、その意見をもとに進めるべきである。

また、石野委員も言われたが、協議会としてやろうと決めたら、皆で協力しなければいけない。その方向でよいのではないか。

【齋藤委員】

高橋委員の話を見ると、不十分、不完全燃焼で終わったという感じを受ける。今までの4年間で、地域協議会として市長へ意見書を提出したり、地域を元気にするための提案事業を提案したりしたことはあるのか。

【榎島係長】

改選前の4年間については、平成26年度に避難所の見直しや備蓄品の種類の充実などの防災の取組を意見書にまとめて市長へ提出した。地域を元気にするために必要な提案事業はない。

【齋藤委員】

年に12回程度会議を開催し、研修や意見交換会をしているが、資料にはその結果が記載されていないから課題が見えてこない。活動したら何かが見えてくるので、それを資料に載せるとよい。

先ほどの会津墓地のことは、地域協議会で行動することは疑問。石野委員が言われたように、金谷地区振興協議会であるのがよい。振興協議会で、具体的な細かい部分を詰めてもらうのがよいと思う。

【高宮会長】

ここで結論を出すのではなく、今日の意見も踏まえ次回の会議でどうするか考えたい。そのために、今までの意見交換の内容は改めて示したい。

【石野委員】

今までの課題の一覧表や年間計画などを示すべきである。

会議の内容は全てHP上から見るができるが、会議録が一言一句載っているため、ものすごく長く分かりづらい。また、初めて会議録を確認したが、2カ月近くたっていたため、自分の言ったことすら良く覚えていない。会議録の書き方も含めて、分かりやすくできないか事務局へお願いしたい。

【榎島係長】

会議録については、平成26年度末までは一言一句漏らさず記載していたが、平成27年度からは要約し、分かりやすくなるように変えている。本日の議論の内容についても、要約して載せる。

【竹内委員】

以前は、その人の話し方の特徴が全て会議録に載っていた。枚数が多く読みにくいため、会議録の確認は大変だった。昨年頃から要約するようになり、少しは読みやすくなってきているかと思う。

【石野委員】

改善を加えてより良いものにしてほしい。

【村田副会長】

会議録の書き方は市で決まっているのか。一般的に考えれば、一言一句漏らさず

入れる必要はない。

【榎島係長】

地域協議会の会議録を、一言一句漏らさず作るように定めていた時期があったが、平成27年4月から要約するよう改めた。

【石野委員】

金谷区だけではなく地域協議会全体で改めたのか。

【榎島係長】

28区全体で統一した。

【石野委員】

今の発言も全部会議録に一言一句載るか。

【村田副会長】

平成27年から改定したため、本日分は要約されることでよいか。

【榎島係長】

平成27年4月からの会議は全て要約している。

【土屋委員】

「こういう内容の課題を検討するので考えてきてもらいたい」とか、「委員からこういう内容の希望が出てきているので考えてきて下さい」など、事前に通知されていれば参加しやすいため、対応してほしい。

【高宮会長】

私もそう思う、そうしたい。

次回の会議では、地域の課題等についての議論と、人口動態のデータ提供を受けることでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

— 次 第 5 事 務 連 絡 —

【高宮会長】

次第4「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・ 次回会議日程：8月24日（水）午後6時から 福祉交流プラザ第1会議室
9月28日（水）午後6時から 福祉交流プラザ第1会議室
- ・ 地域協議会だより：7月15日号発行済

希望する委員の勤務先に対し、会議の出席に配慮を求める通知を出す。希望委員はセンターへ。

【高宮会長】

質疑を求める。

【石野委員】

今年度は出張協議会は開催しないのか。

【高宮会長】

検討し、次回までに報告したい。

他に質疑を求めるがなし。

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課
南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。